

第5日目：都市開発部門

Q 都市計画道路の全体の完成予定は？

～都市計画道路の整備については、一部のみの実施ではその先に続く道路が狭いままになるなど、市民生活に有効に使えない。計画はあるが実施がいつになるかわからない地域の住民にも負担がかかる。現在のペースで整備していくと、市内全体完成まで何年かかるか？

A 約90年かかる。

Q スプロール防止の先手を打つことで市のトータルコストを下げられないか？

～市内各地でスプロール的に開発された小規模の宅地造成に出会う。道も狭いままのところばかりだが、住宅で埋まってからでは道幅拡張は難しく、建てた家を壊す市民の負担も大きいし、用地買収をする市のコストも多額になる。先手を打って防止できないか？

A 市実施のスプロール防止パトロール活動は、法律の許可要件により大規模宅地にしか当てはまらない。道路確保などは区画整理が一番であるが、多額の費用がかかるため、市内でも一部の地域でしか実施できない。

第6日目：建設水道部門

Q 市営住宅、建設するなら耐用年数の長い新工法を採用すべきでは？

～市営住宅の建て替え需要がこれから出てくるというが、昭和40年代に建てられたものには耐震等は大丈夫でもライフスタイルの変化などに対応できていない住宅が少なくないと言う。建設費がかかるものなので、建て替えずになるべく長く使えるように、スケルトンインフィル工法などを採用した住宅を建設すべきではないか。

A 有用とは考えているが、コストが割高なので研究を続けたい。

Q さいたま市の下水道料金は上がるのか？

～過日の新聞報道で今後総務省が地方への交付金カットの流れの中、各自治体で赤字サービスが多く行われている下水道（污水）料金につき、引き上げの要望ありとあった。分権時代、そのまま総務省方針を実施するのか、独自路線をとるのか？下水道料金は？

A 来年度から下水道特別会計については、企業会計方式を導入する。この中でコスト管理がより明確になるので、この中で当市の料金については改めて検討したい。

第7日目：総括質疑

Q さいたま市の財政の未来は大丈夫か？どの分野にメリハリを？

～現在比較的健全な財政を保っている本市であるが、団塊世代職員の退職金負担、学校建設費、病院建設費、合併特例債負担など、今後予測される歳出は大きく、国が交付金・補助金をカットしてきている現在、厳しい将来が予想される。この事態にどう対応するのか。また、予算に大胆なメリハリの必要が出てくると思われるが、どこに切り込んでいくのか。

A まず政令市として税源委譲を要望するなど、分権時代を見据えた歳入確保に努力する。メリハリについては、今年度実施の事務事業評価を一步進めた政策評価を実施していくことで、見直せる事業を見極めていきたい。

雑感：初の予算委員会方式を振り返って

同じ委員が全予算について審議をする方式は、予算全体の問題点について見ることができ、有効だと感じました。また、今回一問一答式の質疑が実現した（一般質問は一方通行方式）ことも、一步突っ込んだ質問を可能にし、良かったと思います。

しかし、問題はやはり審議時間の短さです。最大会派で91分の質問時間（答弁含む）も我が会派では11分。これでは、問題点をじっくりあぶり出す質問は困難です。一年の税金の使い方を決める大事な審議ですから、全体の総時間をもっとかける必要があります。

局別審査の日には市長ら三役の同席がなく、せっかく指摘した問題点が政策的判断に活かされない可能性が高いのも問題だと感じました。